家畜衛生広報 佐久

2021_No.7

しあわせ信州

佐久家畜保健衛生所
〒385-0035 佐久市瀬戸中庭 1111-179
TEL:0267-62-4123 FAX:0267-63-3002
東信家畜畜産物衛生指導協会

令和 3 年(2021 年) 8 月 23 日

サシバエ対策を実施しましょう！

サシバエの活動が活発になっています。吸血ストレスによる生産性の低下だけでなく、感染症(牛伝染性リンパ腫等)を伝播する恐れもあります。

サシバエの活動は初秋に最盛期を迎えます。

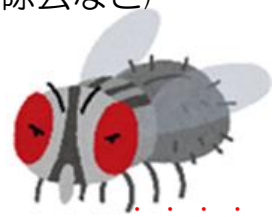
対策は秋までしっかり継続しましょう。

＜対　策＞

①発生防止

- ✓ **清掃**(牛床、バンクリーナー、戸外ペンの定期的な糞尿や残餌の除去など)
- ✓ 湿ったところに卵を産むので給水器の**水漏れを防止**する

②侵入防止



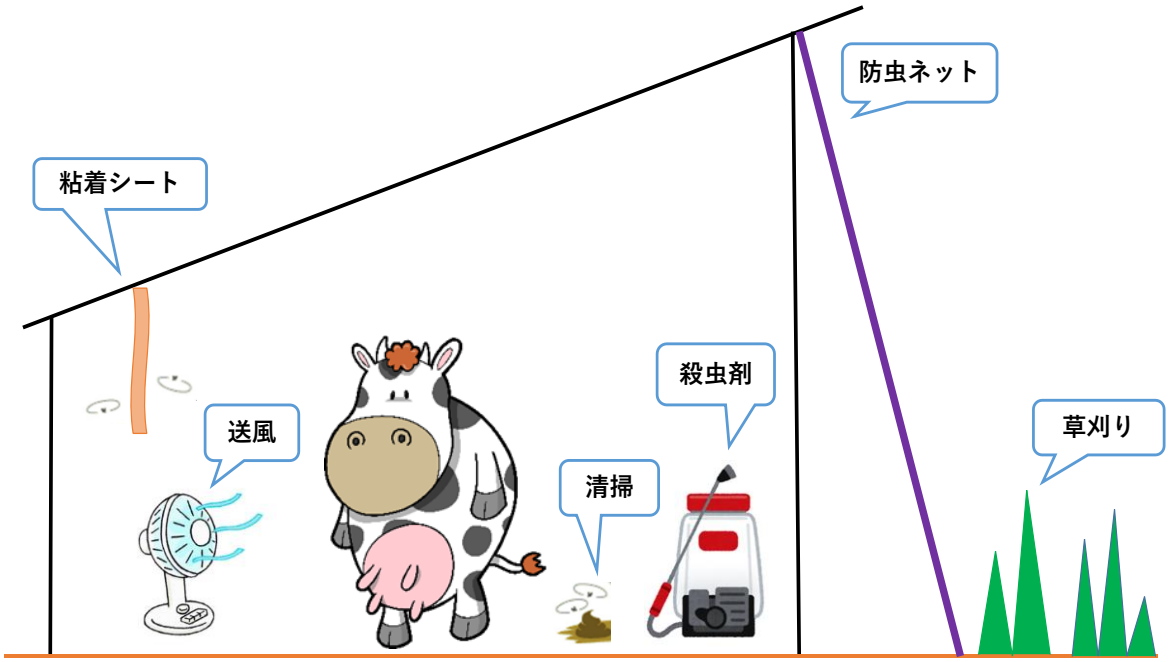
- ✓ 休息場所である**草刈り**
- ✓ **防虫ネット**(2mm 目合)の設置

※ネット設置により牛舎外からの吹き込む風を遮断する可能性があるため、暑熱時に注意が必要です。また、ネットに埃が付き換気が悪くなるため定期的に掃除をしましょう。

③侵入したサシバエ対策

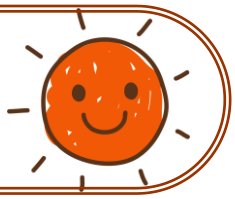
- ✓ 成虫になる前に**駆除**➡ハエ全個体数のうちの 80%の卵・幼虫・さなぎを駆除
  - 脱皮阻害剤（IGR 剤）：幼虫の発生場所に定期的（2 週間間隔）に散布
  - 殺虫剤（有機リン系・ピレスロイド系薬剤等）：ハエ、牛体へ直接噴霧

    ※使用の際は取扱説明書をよく読み、用法用量を守ってお使いください。
- ✓ **粘着シート**：吸血直後は動きが緩慢になり高く飛べないため 1.5m以下に設置
- ✓ **送風**：一定の送風量があれば、サシバエが牛に近寄ることが難しくなります



毎年秋口になると牛の体調が悪くなりませんか？

秋口の飼養管理の留意点



夏の暑熱ストレスにさらされた後、秋風は急激にやってきて、牛達のエサ喰いは急激に回復しますが、この時期に「どこか不調な牛が増えたなぁ～」と感じる生産者は多いと思います。夏の疲労と季節の変わり目の不安定な気候で牛達が体調を崩しやすい時期です。

こまめな観察を行い、早めの対策を取りましょう。

第一胃（ルーメン）の発酵を整えましょう！

急に涼しくなり採食量が急激に増加すると、ドカ食いなどでルーメン発酵が進み、飼料のルーメン通過速度も高まるため、いわゆる“ルーメンアシドーシス(SARA)”や、不消化の穀類が腸へ流入して起こる“大腸アシドーシス”の発生が高まります。

⇒SARA により第一胃内に毒素（エンドトキシン等）が産生され肝臓を傷害します。

⇒大腸アシドーシスは、腸粘膜を損傷し軟便や下痢を起こし、出血性腸炎等の発生要因にもなります。

- 食欲亢進による採食量の増加分を粗飼料で補給するため、飼槽が空っぽの状態をできる限りなくす。
- 第一胃機能の改善効果がある生菌剤（トルラミン、ミヤリサンなど）や機能性飼料（カシューナッツ殻油など）の給与
- エンドトキシンの吸着と腸の保護に吸着剤（ゼオライト、ソフトシリカなど）の給与

肝臓をケアしましょう！

代謝機能の亢進や、腸管から吸収されたエンドトキシン等で肝機能が傷害されると“解毒”の働きが低下します。

混合ビタミン製剤（パンカルなど）やウルソ等の強肝剤の投与。

ビタミンA（VA）やビタミン E（VE）の不足に注意しましょう！

夏場はＶＡやＶＥの消耗が激しくなり血液中濃度が低くなりがちです。

⇒VA 欠乏は肝障害、粘膜の抵抗力低下などいろいろな傷害を引き起こします！

⇒夏場は暑熱による酸化ストレスが増大し、体の中に過酸化物が増加することにより、抵抗力の低下や繁殖機能の低下につながります。

- 血液中の VA や VE レベルを確認し、必要に応じて飼料添加を検討する。
  ※ 検査ついては家保にご相談ください
- 過酸化物を除去には VE（抗酸化剤）の添加が有効。
- VE 肉質の向上にも効果があり、繁殖機能の改善にも有効！

過長蹄や趾蹄の異常は早めに対処しましょう！

過長蹄の場合、蹄腫への負担が増大し蹄底出血が起こりやすくなります。

さらに、ドカ食いなどによるルーメンアシドーシスで蹄葉炎や蹄底潰瘍の発生が高まります。

- 涼しくなり定期的な削蹄には良い時期
  最低年２回、できれば年３回の削蹄が必要
- 跛行や蹄冠等の腫れ・むくみなどの異常がある場合は、早めの処置！

夏バテは、秋に病気や繁殖障害などを発生させます。油断大敵です!!